

# 読書への道案内 — 生徒図書委員とともに —

樟蔭東高等学校 司書教諭 松山 清美 先生

日時：平成 18 年 9 月 22 日（水） 13:30 受付 14:00 開演

会場：大阪府立大手前高等学校



残暑厳しい中の開催ながら、多くの図書館担当者が出席された。はじめに副会長・亀井哲夫先生より「読書が進学に活きる。その中で果たす学校図書館の役割の大きさを学ぶ機会にして欲しい」と挨拶があった。

今回の松山先生の講演は、現場で積み重ねてこられた実践を紹介されるものだけに作例教材も多数用意され、それらを示されながらのお話しは、聴講者の理解を大いに促したことと思われる。こういった実践報告には、作例の提示が欠かせないものと認識を新たにした。しかも、単に聴講者に示すだけでなく、講演終了後には作例を実際に手にとり、製作時の工夫などを伺うことが出来たのも、各現場で製作する上でよい参考になったことと思う。

以下、講演の内容を箇条書きにまとめたが、丸ゴシック体で記した文章は松山先生が当日ご用意されたレジメの内容を転載したものであり、明朝体部分はお話の内容を書き留めたものである。

## ■読書活動の基本理念

読書は、生徒の慣性を磨き、表現力・想像力を高め、人生をより深く生きる力をつける上で欠くことのできない活動である。

したがって、読書活動は「したほうがいい」のではなく、「しなければならない」必要があります。そのためには、生徒が読書に親しめる環境を整備し、読書意欲を高めるとともに、読書活動ができるように支援していく理念が大切です。

### 目標

- 1 みんなで本好きにしまおう
- 2 自分でものを調べるようにしよう

## 平成 16 年度からの本校の読書活動の課題

平成 16 年度より、書く力を育成するために、生徒用資料図書を設置。

「総合的な学習の時間」や現代文の授業で実施された小論文指導において活用することができた。またこの年度より、校内読書感想文コンクールを行い、優秀作品を全国応募するに至る。

平成 17 年・18 年度の課題は、書く力を育成するために、さらに読書活動を推進していくことを目標にする。

## ■読書活動を推進するための図書室環境の整備

### 1. 各教科の調べ学習を促進する。

(例) 『修学旅行』コーナー 『児童文学の世界』 『絵本の世界』等。

携帯電話の普及により、当て字、タメロ会話が蔓延。本を読むのは授業中だけ、という状況が深刻になった。その中で模索を続けた結果、本を通じた仲間づくりを思いついた。

図書委員を中心に本の紹介を試みた。

### 2. パソコンによる検索システムの定着を図る。

『情報館システム』を使い、短大図書館とラン (注：LAN) で接続し、資料検索を中心に学園図書として活用する。

図書委員を書庫に連れて行く(書庫の散策)と、意外にも「読み応えのある本」に目を通している。それを見て、埋もれた本の内容を紹介をすることが大事なのでは、と思った。

### 3. 『文学ビデオ鑑賞会』の充実を図る。

図書室で毎月1週間昼休みと放課後を使い、文学ビデオ鑑賞会を開く。(古典文学ビデオ・名作ってこんなに面白いシリーズ等、約15分から25分の作品を上映)  
生徒たちは昼の放送を聞くような感じで利用し、中には読書感想文の下調べのために放課後も利用あり。

図書館通信を毎月発行。学級に配布し、鑑賞会を紹介し始めた。その結果、昼休みに5～6名。放課後には2～3名の生徒が定着するようになったが、それらは図書委員の友人が殆どであった。ただし、VTRの元になった作品を読むきっかけにはなっている。

### 4 新着図書コーナーの充実を図る。

毎月図書館新刊案内を校内10カ所の掲示板で紹介、図書室にコーナーを設けている。  
『ものしり雑学の館』を発行しいろいろな雑学を知ってもらう。

生徒、教員以外(食堂の方など)からの関心も高い。教室に掲示するものとは内容の異なるものを用意している。

『ものしり雑学の館』を発行することで、「そうだったのか」「忘れていた」といった興味や関心を引き出し、図書館へと導いている。

### 5 新入生オリエンテーションを実施し、いつでも本を借りることができる環境を紹介する。

オリエンテーションの内容 国語の時間を1時間利用

1. オリエンテーションとビデオ鑑賞 13分
2. 図書室の利用説明・読書案内の説明 15分
3. 図書室のコミック・雑誌以外の書籍を読む。 20分  
(授業終了後、貸出も受け付ける)

学校独自のVTRを用意。「図書の森」を発行。いつでも本を借りられる環境であることを紹介。オリエンテーションの内容には、面白い本、いい本の探し方。人から聞いて探す方法。自分で館内を探す方法などを盛り込んでいる。

## 6 図書委員会活動の活性化

1. 『図書館通信』『読書三昧 本のちょっといい話』を発行する。  
毎月各クラスに掲示。（選定は図書委員と司書教諭で行う）

図書委員を中心にした本の紹介紙。読書に導くための工夫として、その時々話題になった図書の内容を紹介し、「私の読んだ本」として、図書委員が〇×式により記入した一覧表を掲示している。

絵本、写真集、実用書についても積極的な紹介を行っている。

この取り組みでは、図書委員一人につき1回あたりの紹介冊数が4冊としても、年間で40冊以上の紹介になる。

新しいものを紹介するときは過去の掲示物を外さず、その上に貼り重ねることで、蓄積された資料として活用している。

2. 図書館季刊号（夏・冬・春）号の発行  
本の紹介・クイズでプレゼントをゲット  
（蛍光マーカー・クリアファイル等約50名前後）

クイズの解答をインターネットで探すなど、工夫している。インターネットは、ものを知らない世代にとって、容易く未知のものごとを探すことの出来るものであり、正解したときに喜ぶ姿が見られる。教諭の与える質問と、図書館で調べることのつながりを楽しみにする生徒もいる。

3. 図書当番に来たときに図書室の本を読み「図書委員の本のちょっといい話」の紹介文を書き、生徒に薦める。（図書室や廊下の掲示板に紹介者承認の上、掲示する。）

図書委員本人の承諾を得て、顔写真入りで紹介。現在60枚の紹介ポスターがあり、年間6枚程度増えている。生徒が自ら作成している。



7. 校内読書感想文コンクールの立ち上げと活動報告。

1. 4月からの国語の授業にて、校内読書感想文コンクールの説明をしてもらう。
2. 6月に図書室より校内及び全国の募集要項を配布。
3. 9月中旬に国語科より推薦された作品や図書室に応募された作品を図書系の教員で審査。
4. 11月上旬に結果発表し、入選者等を表彰する。  
（優秀2・優良2・佳作4）賞状・盾・参加賞

最初は文章の苦手な生徒たちも、1200字程度がやっとだったが、担当教諭のアドバイスにより、1600字程度書けるようになり、中には感想文で表彰されたことが嬉しくて『来年も頑張ろう』『読書って楽しい』という声が聞けました。

生徒の成長度合いを審査。初めてで1200字程度。順を追って1600字に増やしている。夏休み中に担当教員より指導が行われている。この取り組みによって読書量は増えてきたが、活字への抵抗は残っている。

## ■これからの課題

本校の生徒の読書量は、少しずつではあるが、変化がみられる。しかし、活字に対する抵抗が克服され、生徒たちが読書の楽しさを味わうようになったら、次の段階に進むことができるようになります。「読書活動」をテレビや映画のような単なる娯楽として扱うのではなく、「視野を広げ、生き方や社会、自然のあり方についての認識を深めさせるような感動的な体験活動」と位置づけるべきと考えます。

### 今後の課題 <具体的方法>

1. より質の高い推薦図書リストの作成
2. それらを読ませる効果的な実践の創造。

館内の清掃に力を入れている。

整理につながるかと期待。

美化週間には図書委員が点検を行う。

館内が美しくなることに清掃の実感を覚えている。

自ら清掃用具を持参して来館。椅子、本棚を念入りに磨いてくれる。

(松山先生は)本好きではなかった。現職に就き、止むを得ず読書を始めたことで本好きに。今では「この本を読んでこんなことを学んだ」と言えるまでに。

現在は、生徒に与えるDVDの影響が大きい。そこで、本が元になった作品は揃えるようにしている。気軽な感じで鑑賞し、そこから活字に入って行く生徒も多い。どんなことでも何かきっかけになればよい。熱中することで興味につながれば、と願って活動している。読書を取り巻く環境の変化を受け入れながら、新しいことに挑戦していきたい。

## << 質疑応答 >>

### Q 図書委員の活動内容について教えて欲しい

A 校内で最も活発な委員会となっている。委員の選出は立候補による。1学年3～4名で、中学校が6名、高校が28名在籍している。



当番表を年度初めに作成し配布。当番の交代は事前に手続きし、代理を立てる。1年生のときは当番の組み方などでもめることもあるが、以降は自然的な存在の生徒が現れ整理してくれる。

業務はカウンターを中心に、ブックカバーの作成や月に一度のリクエストボックスの集計など。選書は委員の代表が行っている。

相手に「面白い」と思わせることを原点に仕事をさせている。カウンターの対応で相手に不快感を味わわせてしまわないような配慮が必要。

図書委員をパイプ役として、教室に風を吹き込ませたい。携帯電話依存からの脱却を目指したい。

### Q これまでの卒業生で司書になった人はいるか？

A 4名いる。中高6年間にわたって図書委員を務めてくれた生徒もいた。1400冊の読書記録。本との出会いが与えてくれた。

講演の終了後には聴講者の多くが演壇に駆けつけ、ご用意いただいた掲示物や印刷物を手に様々な質問を寄せていたが、先生は、それら一つひとつに簡明な説明を返しておられた。